

地区指定研究協力校公開

10月28日(木)いちき串木野市立串木野小学校において「外国語活動・外国語科」、11月9日(火)日置市立伊集院北小学校において「特別活動」、11月15日(月)三島村立三島竹島学園において「指導法改善」指定研究協力校としての研究公開が行われました。

3校すべての学校が、これまで積み上げてきた研究内容の成果をわかりやすく説明したり、研究内容に基づいた授業を公開したりしました。鹿児島地区管内外から参加してくださった多くの先生方にとって、大変意義のある研究公開となったのではないかと思います。

3校の研究内容については、教育論文・教育実践記録集「波動」第33号に掲載する予定です。どうぞ楽しみにしてください。



【研究授業の様子(三島竹島学園)】

日置地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会 及び組織・教育・食料・環境学習大会

12月9日(木)、日置市中央公民館にて、管内の女性会員等80名の参加の中、学習大会が開かれました。前半の「保健・福祉」の部では、「楽しく！元気に！いつまでも若々しく過ごすために」と題し、県民総合保健センターの中馬みどり氏が講演されました。後半の「組織・教育・食料・環境」の部でのシンポジウムでは、吹上地域女性連による「明るい農村」の取組や、羽島地区婦人部に所属している鮫島百桃子氏のマーメイドパフォーマンスとしての取組の状況等について報告や提言がなされました。その後のディスカッションでは、フロアから活発に意見が出され、地域の活性化や地域ぐるみによる環境保全の重要性を再確認できました。



授業改善の取組を！

今年度から3か年計画で実施されている「未来の創り手を育成する学力向上プログラム」事業の一環として、地区内の先生方と管内指導主事でコアティーチャーネットワークプロジェクトを編成し、国語、算数・数学、外国語活動・外国語(英語)の3つの部会で研究を深めてきました。

プロジェクト部会で作成した資料を現在、かごしま学力向上支援Webや鹿児島教育事務所ホームページに掲載しています。各小・中・義務教育学校における学習指導に、ぜひ活用していただきたいと思います。

また、オープンサポート教科フォーラムの公開授業やプロジェクト部会で作成した学習指導案を基に行った授業を撮影したDVDも、鹿児島教育事務所管内の小・中・義務教育学校へ配布していきます。こちらもぜひ校内研修等で、大いに活用していただきたいと思います。

教材集

検索条件: 管轄: 鹿児島教育事務所

検索条件: 表示順: 登録日 開始順(新) 旧 74件中 1~10 を表示 表示件数: 10件

検索条件: 鹿児島生士 1/10

学校区分	教科	鹿児島	内容
<input type="checkbox"/> 小学校		鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会に係る基本研修(努力)「高質な授業と取り組みの授業改善」(2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 小学校	国語	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会「小学校 国語」(鹿児島県教) (2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 小学校	算数	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会「小学校 算数」(鹿児島県教) (2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 小学校	外国語	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会「小学校 外国語」(鹿児島県教) (2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 中学校	国語	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会「中学校 国語」(鹿児島県教) (2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 中学校	数学	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会研究発表会「ワークショップ」(中学校 数学) (2021年12月13日)
<input type="checkbox"/> 中学校	英語	鹿児島	・令和2年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会(中学校 外国語) (鹿児島県教) (2021年12月13日)

【かごしま学力向上支援Webシステム 教材集】

体育・保健体育の授業づくり

(「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に向けて)

Q これからの授業づくりに向けて、どのようなことに意識して改善・工夫すればいいのですか？

A 小学校では「**全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができること**」、そして、**その結果として体力の向上につながるように改善することが大切です**。また、児童生徒全てが「**体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるように配慮する**」ことが大切です。

学習過程については、**自己の課題解決に向けて主体的に学習したり、仲間と協力したりして課題解決する学習を引き続き重視しながら、資質・能力を身に付けることが大切です**。



相手にブレーキを踏ませない運転を

上記タイトルは先日、南日本新聞の投稿記事に掲載されていた言葉です。管内では、令和3年12月末時点で交通事故(加害)が2件発生しています。

通勤途中、赤信号に変わったのに交差点へ進入する車や制限速度を大幅に超えて走行する車などを見かけて恐怖を感じることがあります。

私たちの運転は周りの人からどのように思われているのでしょうか。思い返してください。職場や家に早く着きたいために、自己中心的で周りの人が危険だと感じる運転をしませんか。道を譲られても当たり前のように平然と立ち去ろうとしていませんか。

車線変更の際は事前にゆとりをもって合図を出す、十分な車間距離を取るなど、周りの車に必要なないブレーキを踏ませない思いやりのある運転に努めてください。また、譲られたら感謝の合図も大切なことです。そうすることで、お互いにゆとりある運転につながります。

周りの車を運転しているそれぞれが、誰かの大切な人であり、あなたにとって大切な人かもしれません。

スクールガード・防犯ボランティア等 研修会

11月28日(日)、いちき串木野市アクアホールで、鹿児島地区スクールガード・防犯ボランティア研修会が開催されました。当日は、スクールガードリーダーや学校の教職員、保護者等、40人を超える参加者があり、いちき串木野警察署やALSOKの方を講師として、講義や実技の見本を通じた研修に熱心に取り組みました。

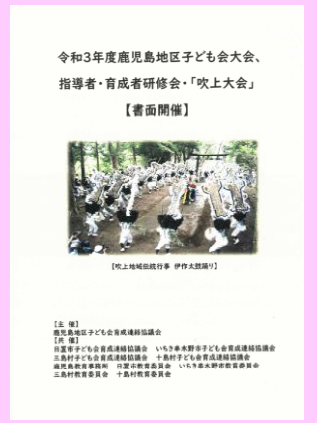
参加者からは「子供たちの安全確保を常に考えていきたい」と思いました。「子供の安全確保については、PTA活動にも生かしていきたい。」等の感想がありました。本研修会で学んだことをそれぞれの立場で生かし、学校・家庭・地域の更なる連携の下、子供たちの安全確保が図られることを願います。



鹿児島地区子ども会大会及び 指導者・育成研修会「吹上大会」

11月27日(土)に鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者研修会「吹上大会」を計画し、準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一堂に会しての研修会を今年度も実施することができませんでした。ただし、今回は、書面開催ということで、2市の教育委員会の取組や、単位子ども会の活動紹介、創作活動資料を掲載した冊子を作成しました。活動に関する発表・創作や交流活動はできませんでしたが、この冊子を御覧いただき、今後の活動等に生かしていただければと思います。

次年度は、いちき串木野市を会場に本大会を予定しております。新型コロナウイルス感染症が終息し、一堂に会しての充実した研修会をできることを期待したいと思います。



本地区の地域学校協働活動

「地域学校協働活動」とは、より多くの地域住民や団体等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指し、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動です。

管内の二市二村では、全ての小・中・義務教育学校と地域に学校運営協議会と地域学校協働本部を設置するとともに、地域と学校をつなぐコーディネーターとして推進員を配置し、活動に取り組んでいます。

地域学校協働活動に取り組むことで、地域の素材を生かした学びや地域住民等とのふれあい活動等を通して、子供たちに郷土愛やコミュニケーション能力が培われることが期待できます。

また、地域住民が子供たちの学びや成長を支える活動を通して、住民相互の絆が強くなり、地域の活性化も期待できます。

コロナ禍で実際の取組が困難な状況ですが、各地域、学校には、この期間を活動の準備期間と捉えて、今できることに取り組んでほしいと思います。

南日本10キロ通信競走日置地区大会 日置地区長距離走大会

12月19日(日)、いちき串木野市日置北部公設地方卸売市場周辺コースで第62回南日本10キロロードレース日置地区大会、第16回いちき串木野市ロードレース大会が行われ、当日は、小学生の部から一般の部までの健脚が競われました。

第35回地区対抗女子駅伝競走大会、第69回県下一周市郡対抗駅伝競走大会において、日置地区の健闘を祈念します。



地区子ども会育成連絡協議会個人・団体表彰

- 《団体》 二郎園子ども会 (日置市)
- つつじヶ丘1区子ども会 (日置市)
- 中央地区子ども会 (いちき串木野市)
- 本浦地区子ども会 (いちき串木野市)
- 《個人》 高橋宏明氏 (日置市)

涼風

自然の営み 人の営み 指導課長 山鹿 真人

自然の声を聴くことができたなら、自然は何を語ってくれるのだろうか。

城山町岩崎谷。職場の駐車場がある場所。毎朝J.Rの線路を右に見ながら真っ直ぐ坂を下り、小川の職場まで出がらす途中にあるのが、西郷隆盛終焉の地である。明治三十二年に建てられた石碑の真後ろには、大きなクスノキが立っている。幹の周囲は三メートル半ほど。もう一本の木と共に敷地全体を覆う枝葉は、百四十五年前、ここで最期を迎えて以来、その魂の安らかなることを祈って差し出されている傘のようにも見える。

城山展望台の付近には、きつと西南の役の際にもしつかりとそびえ立っていたであろう巨木が何本も見受けられる。ある夏の朝、私はそのうちの一本の傍らに立ち、想像してみた。(もし私の魂がこの木の中に入っていたら、目の当たりにしてきたことを見ることができたらどうだろう。)でもそんな想像はすぐにやめてしまった。木に取り込まれてしままいそうな畏れにも似た感覚と共に、こんな声が聞こえてきたような気がしたからである。

ただ、ここで、見守るだけ。ずうっと。ずうっと。いつまでも。

考えてみれば、人の営みは、自然のそれと比べてあまりに小さく、臆病で、急ぎすぎている。戦乱の世を終いにするための最後の戦乱に、西郷が命を投げ出した(私見だが)にも関わらず、戦争を再び繰り返した。その反省に立ってグローバル化は進んだが、人や物の国際的移動の活性化に伴って、新型コロナウイルスは瞬く間に全世界に広がってしまっ

た。ポストコロナの切り札としてますます需要が高まるスマホやネットだが、二〇四五年にはコンピュータが全人類の知能を超えるという説がある。人がAIを制御できない時代がやってくるかもしれないのだ。それを避けるためには、ICT教育をもっとと加速させるべく、STEM教育の導入だ。でも、それによって今の教育をどう変えていけばいい?

夕暮れの帰り道、そんなことを考えながら岩崎谷を上り、駐車場近くの祠の前を通りかかると、お地藏さんの隣にタヌキが座っている。じつとこちらを見て、言った。

「ほら、急ぎすぎ。」

「急ぎすぎ。」

「急ぎすぎ。」